様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	芸術系コース（音楽）／小山英恵

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが（平成24年8月28日）、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1．目標・計画

答申の考え方をふまえ、教師を目指す学生に、音楽教育学に関する知見を実際の教育実践に生かすことのできる力を育成することを目指す。具体的には、以下のように授業を展開する。
①授業内容として、音楽教育学の理論とともに、それらを生きた知識としていくための実践的知識を取り入れる。
②授業方法に関しては、実際の授業ビデオの鑑賞や模擬授業体験等を取り入れることによって、音楽教育学の理論を常に授業実践と結び付けて理解させる。
③成績評価に関しては、音楽科教育に関する知識を問うだけでなく、授業実践場面をシュミレーションする文脈においてそれらの知識を活用することを求めるパフォーマンス課題を評価課題として設定する。

2．点検・評価

授業内容、方法、評価において授業実践との結びつきを意識させた実践を継続した。具体的には、音楽教育学の理論を扱う際に具体的な授業場面がみえる教材を工夫するとともに、授業ビデオの鑑賞、模擬授業、学習指導案の作成等を、授業および評価課題に積極的に取り入れた。学生たちからは、はじめは音楽科の授業がまったく知らなかったため不安だったが授業のイメージがつかめた、音楽科の授業は歌うだけ楽しむだけだと思っていたが音楽を探究する深いものだとわかったといったような意見もきかれたため、おおむね目標を達成できたといえる。ただし、受講生100名以上の大人数の授業においてはすべての学生に細やかな指導を行うことが難しい。今後の課題である。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

教育に関しては、授業において探究的な学習や協同学習といったアクティブ・ラーニングを多く取り入れる。学生が受け身で学ぶのではなく、自ら問いを持ち、探究し、また学生どうしで学び合うことによって、教育内容のより深い理解をもたらすことを目指す。また、ワンページ・ポートフォリオ評価法を取り入れ、学生の自己評価によって音楽科の授業づくりに関する学生自身の認識の変容を促す。
学生生活支援に関しては、オフィスアワーやメール連絡等を活用することによって、学生への個別指導や相談がスムーズに行えるようにする。

2．点検・評価

授業において、アクティブ・ラーニングを継続的に取り入れた。学生たちからは、授業内容について、また学習指導案の作成や模擬授業の内容について、様々な他の学生たちの意見を聴くことが勉強になったという肯定的な意見が聞かれた。また、ワンページ・ポートフォリオ評価法についても学生から肯定的な意見を聴くことができたため、おおむね目標を達成できたといえる。
一部連絡が取れにくい学生が出たため、今後は初回の授業時にメール連絡体制を明確にすることで、よりスムーズな学生への個別指導や相談を行えるようにしたい。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

今年度は以下の2点を柱に研究を進める。
①これまで行ってきた20世紀ドイツにおける音楽教育に関する研究を継続し、論文執筆を行う。
②これまで行ってきた音楽科の授業におけるパフォーマンス評価についての研究を継続し、「真正の評価」の理論に基づいた各学年におけるパフォーマンス課題のあり方を探究する。

2．点検・評価

①については、20世紀初頭ドイツにおける音楽教育家の理論と実践についてまとめ、著書を出版した。②については、音楽科および美術科における「真正の評価」の在り方の研究を進め、その成果を研究報告書にまとめた。以上からおおむね目標を達成できたといえる。今後は、これらの研究をさらに発展させたい。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

以下の点に留意して、大学運営に参画する。
・各種委員会やコース内での運営において、任務内容を推進する。
・大学における教師教育のための研修行事に参加する。
・コース内の教育活動や行事等の運営がスムーズに展開されるよう、積極的に助力する。

2. 点検・評価

担当の委員会やコース内の運営、仕事において任務を遂行した。ただし勤務初年度であり不慣れな面もあったため、今後はよりスムーズに行えるよう努力したい。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携，国際交流等

1. 目標・計画

附属小・中学校との連携に関しては、現場の課題意識に寄り添いながら教育研究活動（研究大会等）に参画する。また、附属学校の教諭と連携し、本学学部の教育実践コア科目の講義内容を工夫する。
現場教員の研修に関しては、京都大学大学院教育学研究科主催の教員研修「E.FORUM全国スクールリーダー育成研修」において、音楽科の授業づくりについて発表を行う。

2. 点検・評価

附属中学校および附属小学校における研究会に参加するとともに、附属小学校においては共同研究を継続し、教育研究会音楽科分科会において講演を行った。また、教育実践コア科目においては附属学校教員と連携した。さらに、京都大学大学院教育学研究科主催の教員研修において研究発表を行った。以上からおおむね目標を達成できたといえる。

Ⅲ. 本学への総合的貢献（特記事項）